

寿命寺石塔群語り継ぐ

白鷹

白鷹町下山区
の最上川フットパ

ス近くの石塔群「寿命寺」(じゅりようじ)「石塔群」を後世に語り継ごうと、最上川の文化・景観の保存・継承活動に取り組み地元住民組織「黒滝会」(奥山一雄会長)などが石塔のそばに説明板2基を設置した。

かつて下山地区には真言宗醍醐派に属する「寿命寺」があり、その敷地内に九つの石塔があった。石塔には安産と子育ての安全を祈願する「大宮供養塔」、畜生道に落ちた人を救うという「馬頭観世音」などがあり、祈りや願いが本山に通じる所とされていた。

地元住民 歴史伝える説明板設置

同寺は1949(昭和24)年に廃寺となり、54年には堂宇が火事で焼失。石塔は奥山会長らによって2006年、約100㍏西側の現在地に移された。

説明板は県の「未来に伝える山形の宝」制度の補助金などを活用し、黒滝会や関係者らが設置。2基とも高さ2・5㍏ほどで、幅は3㍏と約2・45㍏。石塔の詳しい説明や寿命寺の歴史などが書いてある。

除幕式が3日に行われ、地元住民ら約30人が参加。神事を行って説明板の完成を祝った。奥山会長は「石塔に込められた先人の思いを後世に大

切に引き継いでいきたい」と話していた。

除幕式では神事などを行い、説明板の完成を祝った

＝白鷹町下山

